

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2010年12月1日

87号



レダの港から隣りのインディヒナ村に船で行く途中、岸辺にタイガーが現れました。船が通り過ぎても動かず、船を岸辺近くに移動して飯野氏が撮影しました。

上記の写真の如く、レダの基地内にもタイガーテイグレが生存しております。テイグレは牧場にて牛を飼う牧童達にとつては天敵ともいわれ、彼らが見つければ牛を守るために、銃で撃ち殺すため、激減している貴重な動物です。レダでは今年、八月には保護のため、発見したティグレを麻醉銃で撃ち、センサー付きの首輪をつけ、生態の研究を始めました。

近隣のインディヒナの村では貧しさゆえに発見した希少動物でも関係なく、捕獲し、食糧にしてしまいます。そのため、レダ開拓を始めて以来、近隣の村の生活水準を向上させ、食生活を改善することが希少動物保護することになると近隣の村に学校を立て、植林活動をし、現在では農業の確立のための支援をしております。

農業が定着すれば食生活が変わり、カビバラのようなおとなしく、人になんの害を及ぼさない動物を殺して食べる事もなく、それらの自然が観光の資源として、多くの人が訪れるエコ観光の道も拓け、生活の向上の道にもつながることの教育も始めています。

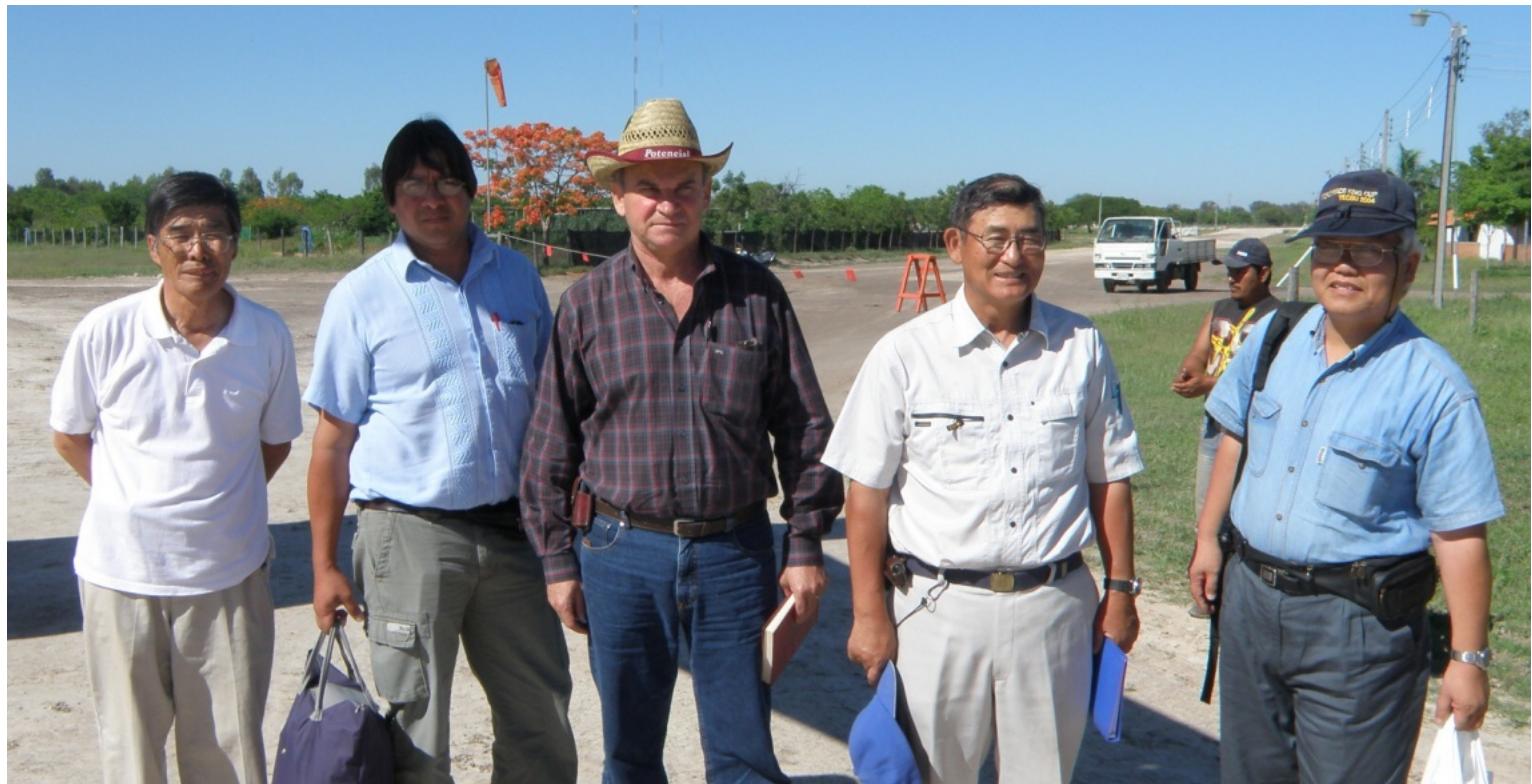
また、貴重な観光資源を絶滅することなく、生命の維持ができるよう、レダでは本格的に魚の養殖を成功させたためのプロジェクトを、アスンション大学の援助を受け、出発しました。

レダで養殖が成功すれば、インディヒナの村においても魚の養殖が出来るように援助し、動物性たんぱくを取る道も開けると期待しています。奉仕活動は常に物質的援助をするよりは、インディヒナの村自身が生活の基盤を継続して維持できる道をともに作っていくことであると信じ、南北米福地開発協会では今日まで努力して来ました。

パンタナールは豊かな観光資源があり、その資源を生かし、パンタナールに住む人々と自然が共生できる道を開くことが出来ると確信し十二年目に入っています。時間はかかるますが前進していますのでご期待ください。

【水産学部長レダ観察】

(中央 学部長、右隣り孵化専門教授)



十一月三日、アスンシオン大学のマリオ・

インサオラルデ水産学部長と孵化専門のマ

グノ・バレト教授が、快晴のレダに佐野先

生同行のもとミリタリー機でやつて来まし

た。現在レダで始めようとしている魚養殖

のプランを視察検討するためです。

レダの経済収益ということだけでなく、

乱獲で激減しているパンタナールのメイン

の魚を保護して行く(孵化して育てた稚魚

の放流)ためにも、パラグアイの食生活を

向上させて行く為にも、更には僻地レダ上

流の貧しいインディヘナの村々に養殖の道

を手助けしてあげることにより、安定した

経済基盤を少しでも作つて行つてあげられ

たらということも含めて、養殖プロジェクトは今熱い期待が込められています。

『餌の研究が必要

レダで採れる作物ができるだけ使用。

アルガロボの実、マンジョーカ、ソルゴの

実、大豆、トウモロコシ、フスマなど

※パクターは 1 kg の高タンパク質(1 kg 以上)

の餌で 1 kg 大きくなると言われて

いる。また、アスンシオン大学の助言を受

けながら計画を検討している。(十一月三日

にアスンシオン大学の水産学部長と教授二

人レダに現地視察に来られた。)

未知な分野なので、研究開発費、施設費
が必要。一年目は、様々な調査、研究、養
殖施設の視察をしたい。また、アスンシオ
ン大学で今月四日間の研修を受ける予定。
二〇一一年には、養殖と共に採卵、孵化、
仔魚を飼育する実験を計画。』

上山研究員より

アスンシオン大学の提案

第一段階(二〇一〇～二〇一二)

状況把握

活動一 現場視察

予備計画の為の状況把握

計画書作成(合意文書作成)

*具体的なプラン*プログラム(日程)
*予算 *両方の役割明確化

活動二

プロジェクトの具体化

プログラム(日程)に添つて実行

第二段階(二〇一一～二〇一二)

本格的プロジェクト実施(五年計画)

養殖実施

パラグアイ川の魚の保護地域

アスンシオン大学での孵化実験

レダでの施設改良

資金確保

アスンシオン大学の施設改良

プロジェクト開始

期待される結果

1. 技術的、経済的、また環境的に

な川の中でのネットの中での持続可能な養殖プログラム

2. 地域住民が各家庭での養殖の推進

3. レダの中にパラグアイ川に棲む魚の展示館の準備

4. 技術的、経済的、また環境的に持続可能

な川の中でのネットの中での持続可能な養殖プログラム

5. パラグアイ川での放流のための

稚魚の生産設備の準備

【青年研修エスペランサ村奉仕活動】

日程..「一〇月三十日から十一月一日（二泊三日）

参加者..古市、平野、佐藤、西川

スタッフ引率..飯野、伊達

村の美化活動（ゴミ拾い、ゴミ集めを子供たちも一緒にした。集めたものは燃やした。）

植樹活動。公園内に二ームを四十一本、街路樹に二本植えました。街路樹用は穴掘りから始まります。固い土でしたが子供たちも熱心に手伝ってくれました。先生まで参加して三本の柱に横木を十八枚打ちつけて、家畜からのプロテクトをしました。

交流会では、「カントリーロード（スペイン語）」「南の島のお猿さん」等が歌われ、拍手喝采でした。特に「おさるさんだよ、アイアイ、アイアイ」は、何回も歌つて皆が覚えられるようにしました。

（写真と文..飯野）

青年達の感想
「子供たちの純粋な心、笑顔に触れて心が洗われる思いだつた。」「今回の経験が人生の大きな糧となりました。」「思い切り一緒に遊び、一緒に歌い、沢山話すことが出来、楽しかったです。また来たいです。」



ギターで歌う青年達
時間があれば歌の交流がされました。またスポーツ（サッカー・バレーボール、水泳）で思い切り汗を流し、忘れられない子供たちとの出会いをしました。
雨上がりの水溜りの広場でも何のそのボルル一つで友達です。
校庭で女子はバレーボール、その向こうでは男の子がサッカーに夢中でした。



南北米福地協会の 一〇一年度カレンダー

が十二月中旬に出来上がりります。下記野力レンダーを使われている写真は飯野南北米福地開発協会副会長が現地で撮影した貴重な写真です。

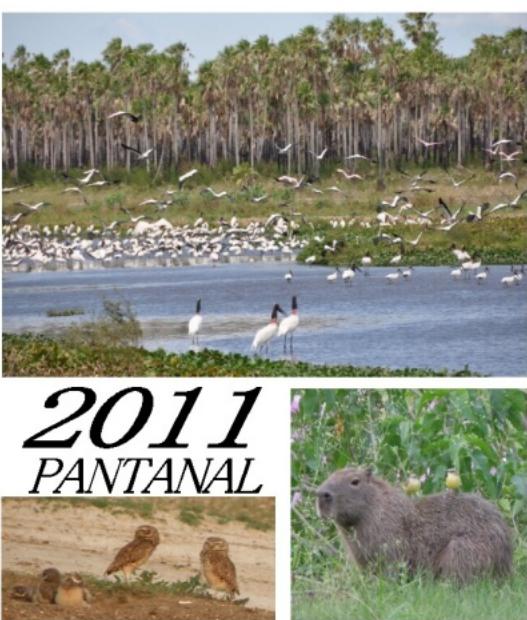
是非、ご活用下さい。注文は事務局にファックスかメールでお願いします。



各地で国際協力青年奉仕隊活動報告
徳島の会員の要請で奉仕に関心を持つ高校生、中学生の集まりで十月三十一日報告会を柴沼事務局長が行う。参加者は五十名ほどで、发展途上国への奉仕活動に関心を持ち、大学生になつたら是非、奉仕隊に応募したいと希望する学生が多くった。



十一月三日、九州福岡県に住む南北米会員でレダにも訪れたことのある都氏の家にシニアボランティアの会員が集まり、南北米福地開発協会の活動報告が行われた。参加した方は二〇名ほどでしたが熱心に討論がなされた。日本の国はもつと世界に貢献しなければならないとの意見が出されました。



カレンダーワン枚

1~9枚	400円
10~19枚	350円
20~49枚	300円
50~99枚	250円
100枚以上	200円

お送りする場合は上記の金額に郵送の簡便金300円が加わります。着払いとなりますのでよろしくお願ひします。

事務局

南北米福地開発 協会会員の募集

地球家族として
自然を守りましょ

南米、パラグアイ・パントナール地域へのエコツアーナラビに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとして世界に環境保護の大切さを訴えています。会費は月五〇〇円、毎月、パントナール通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒二一三一〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一十五

電話 F a x ○四四一八二九一一八二一

会費納入 ○一七七六八〇四七一
一〇一八 ○四四一八二九一一八二一

岩崎ビル四F
八二九一二八二一
八二九一二八二一
代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ http://www.asd-nsa.jp

http://www.asd-nsa.jp